

狛江市農業振興計画実施計画書

平成 26 年度～平成 28 年度

平成 26 年 4 月

狛江市

目次

狛江市農業振興計画の概要	1
狛江市農業振興計画実施計画	3
① 都市農業ならではの多彩な農業生産の推進	3
② 広範な担い手の育成	5
③ 地産地消の推進と販路の拡大	5
④ 食育とふれあい農業の推進	6
⑤ 地域環境を支える農地の保全	7
*（参考）東京農業振興プランによる振興施策	8

狛江市農業振興計画の概要

1. 将来像を示すテーマ[キャッチフレーズ]

市民と共に育てるこまえ農業

2. 将来像を具体化するための5つの基本方針

- ①都市農業ならではの多彩な農業生産の推進
- ②広範な担い手の育成
- ③地産地消の推進と販路の拡大
- ④食育とふれあい農業の推進
- ⑤地域環境を支える農地の保全

3. 基本方針を踏まえた施策展開

①都市農業ならではの多彩な農業生産の推進

消費地、消費者が近く、流通面で有利であるなどの都市農業の利点を生かし、営農形態に応じた多彩な農産物の生産と、安全で安心できる環境にやさしい農業を進めます。また、狛江市農業の中核を担う認定農業者を育成し、それらを中心として農家を支援します。

②広範な担い手の育成

農業後継者の育成など、農業従事者の状況に応じた育成策を講ずるとともに、援農市民などの新たな担い手の育成を図ります。農業に関心があり農業生産に取り組む意欲のある市民と協働する仕組みづくりを進めます。

③地産地消の推進と販路の拡大

地域で生産した農作物を地域で消費するという「地産地消」は流通コストの面からも効率が良く、消費者と直接交流を図るという点からも推進していく必要があります。市民が安心できる農産物を供給するために、多様な直売や量販店、学校給食などの地場流通の仕組みづくりと販路の拡大を図ります。

④食育とふれあい農業の推進

生活の基本となる食育を推進し、地場農産物を活用した食育の推進を図るとともに、多様な農業体験の場と、消費者のニーズにあった農業情報を提供し、市民との協働による農業の活性化を進めます。

⑤地域環境を支える農地の保全

市内に残る貴重な農地を有効活用するために、農地の持つ多面的機能を活かし、災害時に避難場所としての大きな役割を持つ農地を保全し、地域環境を支えていきます。

4. 狛江市農業振興計画の性格

計画期間は、平成 19 年度から平成 28 年度までの 10 年間とし、上位計画である「狛江市後期基本計画」（計画期間：平成 26 年度～平成 31 年度）等や、関連計画である「東京農業振興プラン」等とも、調整を図りながら施策を展開します。

5. 狛江市農業振興計画と実施計画の関係について

狛江市農業振興計画実施計画は、平成 26 年度から平成 28 年度までの 3 年間とします。

振興計画との関連を図に示すと、以下のようになります。

H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29～
農業振興計画						(新) 農業振興計画
実施計画 (H23～H25)			実施計画 (H26～H28)			

粕江市農業振興計画実施計画

①都市農業ならではの多彩な農業生産の推進

1. 都市型農業への経営支援

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・意欲ある農業者への情報提供 東京都、東京都農業会議、マインズ農業協同組合等と連携を図り、都市農業経営に関する情報を収集し、意欲ある農業者に提供する。	継続	継続	継続
・東京都の補助事業を活用した農業者への支援 東京都の補助事業（都市農業経営パワーアップ事業）を活用して、限られた農地での生産規模の拡大及び、経営の安定化を図ろうとする意欲ある農業者に対し、事業費の一部を補助する。	2,426	2,426	2,426

2. 付加価値型農業の推進

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・有機肥料購入費用の一部補助 有機肥料購入費用の一部を補助することで、環境にやさしい都市型農業の推進を図り、市民に安心・安全な粕江産農産物を供給する。	2,240	2,240	2,240
・フェロモントラップ及び誘引剤購入費用の一部補助 フェロモントラップ及び誘引剤購入費用の一部を補助することで、農薬の使用を極力減らした安心・安全な農業の推進を図る。なお、幅広い農産物の病虫害防除に対応するため、数種類のフェロモントラップ及び誘引剤を補助対象とする。	450	450	450

・生産工程管理手法（GAP）の取組みへの支援及び狛江産農産物ブランド化の確立 生産者自らが点検項目を定め、農作業を実施・記録・検証を行い、農作業の改善に結びつける、農業生産工程管理手法（GAP）の取組みに対し支援する。これにより、「安心安全な野菜づくり」を示す仕組みが構築され、食の安全を「見える化」することで、新たな付加価値を加えた狛江産農産物を地域ブランド野菜として確立する。	1,245	950	950
--	-------	-----	-----

3. 認定農業者の育成

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・認定農業者の認定及び再認定 認定農業者を目指す農業者に対して、申請に向けた経営相談、経営改善計画書の作成等を支援する。また、更なる農業経営の向上を目指し、再度認定を受ける農業者の支援も行う。	継続	継続	継続
・認定農業者への支援 認定農業者が行う、農業経営改善計画を推進する事業に要する経費の一部を補助することにより、認定農業者の持続的かつ安定的な農業経営の確立を図る。	3,600	3,000	2,800

②広範な担い手の育成

1. 多様な担い手の育成

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・農家と市民が協働する仕組みづくりの検討 体験農園等を通じて、農業に深い関心を寄せる市民が農業ボランティアに登録する等、農家と市民が協働する仕組みづくりを検討する。	検討	検討	実施

2. 農業後継者の育成

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・先進地視察研修等の事業支援 マインズ農業協同組合の後継者組織が実施する先進地視察研修等の事業を補助することで、次代の狛江農業を担う農業者の育成を図る。	212	212	212

③地産地消の推進と販路の拡大

1. 多様な直売の推進

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・農産物直売所マップの作成 農産物直売所マップを作成し市民に配布することにより、狛江産農産物のPR及び地産地消を推進し、安心・安全な農産物の供給拡大を図る。	検討	実施	継続

2. 販路の充実・拡大

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・ 農業者の収益向上及び農産物の販路拡大 マインズ農業協同組合との連携を図り、市内外の量販店・飲食店等に幅広く狛江産農産物を流通させることで、農業者の収益向上及び農産物の販路の拡大を支援する。	継続	継続	継続
・ 学校給食及び保育園給食への安定供給 地産地消の推進及び販路の拡大を図るため、狛江産農産物を安定的に学校給食及び保育園給食へ提供できるよう、生産者、教育委員会及び児童青少年部と連携する。	継続	継続	継続

④食育とふれあい農業の推進

1. 食育の推進

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・ 食育に関する情報提供及び連絡調整 庁内の関係各課と連携をとり、食育に関する情報の提供及び生産者と関係各課との連絡調整を図る。また、狛江産農産物の推進との相乗効果を図るため、野菜ソムリエを活用した事業を検討する。	検討	検討	実施

2. 多様な農業体験の推進

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・ 体験型農園の整備及び運営の支援 子どもから大人まで手軽に農業に親しみたいという市民ニーズに対応するため、農業者自らが開設・管理し、農家から直接、技術指導を受けることができる体験型農園の整備を推進し、運営の支援を行っていく。	790	790	790

・農業ウォッチングラリーの支援 市民が農業者と共に市内農地を回りながら農産物を収穫することで、都市農業への理解を深めてもらう農業ウォッチングラリーの支援をする。	150	150	150
--	-----	-----	-----

3. 農業情報の発信

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・狛江産農産物の魅力をPRする マインズ農業協同組合及び都市農政推進協議会と連携を図りつつ、毎秋に実施する農産物品評会及び年末に実施する狛江産農産物の直売等を通じて、新鮮で安心・安全な狛江産農産物の魅力を市民にPRしていく。	300	300	300

⑤地域環境を支える農地の保全

1. 多面的機能を活用した農地保全

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・市民農園の維持管理 都市生活の中で、気軽に土に触れ作物を育てることの喜びを感じられる市民農園を、より多くの市民に利用してもらうため、区画整地、樹木剪定及び除草等の維持管理を行う。	1,683	2,032	1,924

2. 農地保全の仕組みづくり

単位：千円

事業内容	26年度	27年度	28年度
・都市農地保全推進自治体協議会の活用 農地を持つ都内自治体等で構成する「都市農地保全推進自治体協議会」に加盟し、周辺自治体と連携をとりながら、国・都などへ都市農業の振興及び農地の保全について、積極的に働きかけを行う。	20	20	20

（参考）東京農業振興プランによる振興施策

東京都では「東京農業振興プラン」策定から10年が経過し、東京農業を取り巻く環境や、経済・社会情勢の変化に対応するため、平成24年度から10年後を見据え、平成24年3月に「東京農業振興プラン～都民生活に密着した産業・東京農業の新たな展開～」として改訂いたしました。このプランでは東京農業が持つ潜在力を最大限に発揮して、都民生活に密着した産業として農業を振興していくため、今後の方向と施策展開を示したほか、都市農業に係る制度改善の国への提案を明記しています。

ここでは狛江市農業振興計画実施計画の参考として、東京農業振興プラン「補章 地域農業の振興の考え方と経営モデル」の一部を掲載します。

「東京農業振興プラン～都民生活に密着した産業・東京農業の新たな展開～」(平成24年3月改訂)

「補章 地域農業の振興の考え方と経営モデル」

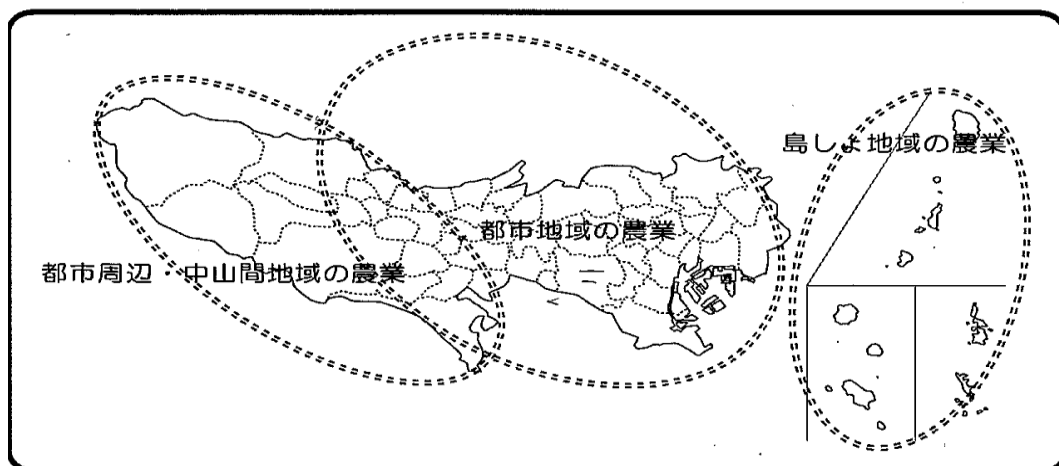
第1節 地域別農業の特徴と振興の考え方

東京農業は、区部や多摩の都市地域から中山間地域、伊豆・小笠原の島しょ地域まで、極めて広域な地域で、それぞれに自然や周辺環境に応じた特色ある農業が営まれていることから、各地域の農業の振興にあたっては、地域の実情に応じた振興策が必要です。

ここでは、東京農業を地域別に大きく3つに分け、それぞれの農業の特色と特徴的な振興方向を示します。

《特色ある地域の農業》

- 1 都市地域の農業
区部や多摩地域の市街化区域内で行われている事業
- 2 都市周辺・中山間地域の農業
農業振興地域を含む都市地域周辺及び中山間地域で行われている農業
- 3 島しょ地域の農業
伊豆諸島及び小笠原諸島で行われている農業



1 都市地域の農業

(1) 農業の特徴

《地域の概況》

区部や多摩地域の市街化区域では、生産緑地を中心とした農地で、都民生活との関わりを持ちながら農業が展開されています。近年、この地域の農地は、都民のレクリエーションの場や災害時の防災空間など、その多面的機能が注目されています。

《農地・担い手》

- 農地の約8割が生産緑地地区に指定され、限られた農地を効率的に利活用した農業が進められています。特に、区部の東部地域では施設栽培による極めて集約的な農業が展開されています。また、区部の西部から多摩地域にかけては、比較的まとまった農地が存在し、露地栽培や施設栽培による生産が活発に行われています。しかし、この地域では、相続の発生等に伴い、農地の減少が続いています。
- この地域は、他業種からのUターンで就農する後継者などが比較的多く存在します。一方で、農業者の高齢化などにより労働力が不足している農家もあり、制度上、農地の貸し借りが実質的に難しいことから、こうした農家への農作業のサポートが必要です。

《経営・生産・流通》

- この地域には、積極的に経営改善に取り組む認定農業者が多く、それぞれの農業者が生産から販売まで、創意工夫をこらした個性のある経営を展開しています。近年は、農産物加工や農業体験農園などのサービスを経営に取り入れる農業者も多く見られます。
- 生産品目は実に多様で、各地域で特産物を生産しています。

野菜は、区部東部では東京特産のコマツナを中心とした軟弱野菜類が施設栽培により集約的に生産されて、市場を中心に出荷されています。また、区部西部から多摩地域では、かつては、キャベツやブロッコリーなどの産地として市場に多く出荷されていましたが、近年は、直売への移行が進んでおり、多種類の野菜が生産されています。また、江戸の伝統文化を引き継ぐ「江戸東京野菜」が注目されており、栽培に取り組む農家も見られます。

果樹では、直売や贈答用として人気が高いナシの「稲城」やブドウの「高尾」など、収益性の高い品目が生産されています。近年では、ブルーベリーなどの観光農園も増えています。

花きでは、シクラメンやプリムラなどの鉢花や花壇苗などの生産が盛んで、植木やグランドカバープランツでは、全国有数の産地となっています。

畜産では、環境問題を克服しながら都市の立地を活かした経営に取り組んでいます。酪農家がアイスクリームなど乳製品の製造・販売に取り組んだり、畜産とのふれあいの場を提供するなど、地域と共存した経営を展開しています。また、養鶏農家では、新鮮な鶏卵や東京うこっけい卵の直売、自家製の卵を使った洋菓子の製造・販売など、多様な取組が行われています。

- 大消費地の中で農業が展開されていることから、農産物は市場出荷のほか、直売所や地元量販店など、多様な販売ルートを通じて都民に提供されています。

(2) 農業振興の方向

《東京農業の特性を活かした産業力の強化》

- 新技術の導入や施設化などによる生産性向上に加え、大消費地に立地する優位性を活かして、農産物加工やサービスなどの経営の多角化を進めます。また、都民ニーズを積極的に開拓し経営に活かすことで、収益性の高い力強い農業経営を目指す意欲的な農業者を支援します。
- 地元商工業者との連携や農業者自らによる、地域の特産物を活用した新商品の開発を積極的に支援し、地域の活性化に貢献していきます。
- 認定農業者や農業後継者の経営力向上を支援するための技術・経営研修を充実していきます。また、農業者の高齢化や労働力不足に対応するため、援農ボランティアや農作業受委託の仕組みを充実していきます。
- 都市農地の保全に向けては、区市と連携し、生産緑地の追加指定を推進します。

《都内産農畜産物の安全・安心の確保と地産地消の推進》

- 住宅に隣接し消費者の目の前で生産が行われているこの地域では、IPM技術など様々な手法を用いて農薬や化学肥料の使用を抑えた環境に優しい農業を推進します。

また、JA等農業団体と連携して生産情報の記録と公開を推進し、消費者の食の安全・安心への期待に応える取組を推進していきます。

- 農産物共同直売所やインショップでの販売、商店街との連携などにより地域における農産物の地産地消を推進していきます。

また、この地域の農産物を、農地のない区部の学校給食や都心部の飲食店に供給するなど、販売チャンネルの多様化と新たな流通ルートの構築により、都内産農産物の地産地消ネットワークを整備して、都民の期待に応

えていきます。

《豊かな都民生活と快適な都市環境への積極的貢献》

- 都市の農業・農地は、観光農園や農業体験農園などによる都民と農業のふれあいの場や、農業用井戸の災害時の活用を含めた防災空間、子供たちの農業体験学習や食育の場としても活用されています。今後も、区市や農業団体と連携し、農業・農地の持つレクリエーションやコミュニティー、教育、防災などの多面的機能を発揮した農のあるまちづくりを推進します。
- この地域では、花と植木の生産が活発に行われていることから、こうした都内産緑化植物を活用して東京の緑化を推進する「花と植木の地産地消」を進め、生産・流通の拡大に取り組んでいきます。
- 都民が身近な都市地域で農とふれあい、体験し、楽しめるよう、農産物直売所や観光農園、農業体験農園、とうきょう特産食材使用店などの情報を積極的に発信するとともに、地域を訪れ、楽しめるよう、農を巡る散策マップや案内板などの整備を進めます。

登録番号（刊行物番号）

H26－4

狛江市農業振興計画実施計画書

平成 26 年 4 月発行

発行	狛江市
編集	狛江市市民生活部地域活性課 狛江市和泉本町一丁目 1 番 5 号 電話（03）3430－1111
印刷	庁内印刷
頒布価格	20 円